▼フレンズコーナー

土木ウォッチング＆Discover Doboku

大阪万博のレガシー“太陽の塔”

芸術家岡本太郎がデザインした SRC 造搭状施設

東京都市大学名誉教授
吉川 弘道

それは、2014 年９月 11 日夕刻、出張先での出来事でした。

大阪での用務のため、たまたま万博記念公園駅（大阪モノレール）近くのホテルを予約し、太陽の塔に期せずして再会したのです。駅を降りてホテルに向かって歩いていましたが、背後に何か気配を感じ振りむいたら、この塔がこちらを見ていたのです。かなり上空からの目線でした。

『生きていたんだ、太陽の塔』。本当にそう思ったのです。

（岡本太郎ファンの皆様、地元に慣れ親しんでいる方々には失礼ないい様ですが、本当にそう思ったのです）。高校３年の時、関西修学旅行で訪れた大阪万博（正式名称は日本万国博覧会：1970 年３月１５日～９月１３日開催）以来なので、40 年振りの再会でしょうか。

『元気だった？』と尋ねたら、黄金の顔がコクンとうなずいていた（ような気がした）ので、

『(私は）こんな大人(?)になりました』と報告しました。

思いもかけない半世紀ぶりの会話（微妙に大袈裟になっています）で、何か目頭が熱くなるのを感じながらも、ホテルのチェックインに急ぎました。

さて、この太陽の塔は、1970 年開催の大阪万博のシンボルとして設置された、高さ約７0m の SRC 造（一部鉄骨）の搭状施設。岡本太郎がデザインしたこの塔は、未来を象徴する頂部の“黄金の顔”、現在を象徴する正面の“太陽の顔”、過去を象徴する背面の“黒い太陽”、の３つ顔を持つ。昭和真っただ中にあって、この塔に見守られながら、それぞれに異彩を放つ外国/企業系のパビリオンを渡り歩き、次々に出っくわすカルチャーショックを享受していました（長い長い待ち行列にもへこたれずに）。上目線ですが、微動だにしない太陽の顔に、当時の様子を懐かしく思い出させてくれました。

‘太陽の塔オフィシャルサイト’ https://taiyounotou-expo70.jp/about/project/ によれば、再生事業として、塔の耐震工事の実施と内部展示の「生命の樹」、第４の顔「地底の太陽」を復元し、既に一般公開（事前予約制）しているとのこと（すぐにでも、現地に馳せ参じる所存です）。

加えて、建設ニュース https://www.constnews.com/?p=23315 によれば、塔の構造は、下部がＲＣ造、中央部がＳＲＣ造、上部と腕部がＳ造の地下１階地上２階建て延べ 1304m2。改修工事は、下部が内壁増し打ち補強、上部が既存鉄骨に補強鉄骨フレームを設け、既存エスカレーターを撤去するとともに、鉄骨階段を新設するとのこと。

改めて整理すると、太陽の塔との出会いは 1970 年（昭和 45 年）。当時、大学受験を控え、理系とは決めていましたが（先生が決めていた？）、どんな分野どんな学部/学科が良いか逡巡している時期でした。そんな折り、コンクリート建造物（建築物ですが）との邂逅を果たしていたのでした。大学進学後、卒論でコンクリート構造を選択し、（40 年ほど途中略）現在に至り、この CNCP 通信の原稿ワープロをたたいています。やっぱり、建築の方が良かったのかな？（こら～、そっちか!!）。

■追伸：社会インフラ（“土木”、または“Doboku”と総称しています）の醍醐味と意義を伝えるべく、下記の２つのサイトを主宰しています。

☆★☆土木ウォッチング -インフラ大図鑑-：https://www.doboku-watching.com/

***1,100 の記事を公開しています

★☆★Discover Doboku -日本の土木再発見-：https://www.facebook.com/DiscoverDoboku/

***フォロワーが 10,000 人を超えました

社会インフラを、次世代に繋げるための現世代のミッションと考えています。ご支援ご愛顧ください。

Infrastructure for the Next Generation.